

7月定例所長会見における千野所長挨拶内容

耐震設計審査指針の見直しに伴う地質調査について

当発電所では9月初旬から10月下旬までの間、起震車を使った地下探査を実施します。地下探査とは人工的な地震波によって地層の分布や深さなどを把握する調査手法ですが、起震車で地面に小さな振動を与え、反射してきた振動を地震計で測定することによって、発電所周辺のより詳細な地盤情報を得ることが可能となります。当発電所では、これまでの地表地質調査によって柏崎平野の下には活断層がないと評価していますが、地下探査によって地下構造のデータを取得し、評価の信頼性をさらに高めたいと考えています。

調査ルートは柏崎平野を東西方向に横断する2ルートを計画しており、柏崎市松波から曾地までの約9kmにわたる発電所南側のルートと、柏崎市宮川から西山町妙法寺までの約8kmにわたる発電所北側のルートの2ルートを調査する予定です。加えて、すでに詳細な地下構造を把握している発電所構内から松波までの海沿いのルートと、送電線を建設する際にボーリング調査を行った刈羽村十日市の2ルートについて補完的に地下探査を行い、調査の信頼性をより高めることといたします。

調査ルート沿道の皆さまに対しては、詳しい日程が決まり次第、調査方法や影響を丁寧にご説明してまいります。

なお、今回の地下探査で取得したデータは、当社がこれまでに得ている地下構造と照合しながら、発電所周辺の地質構造をより詳細に評価を行い、今年度末頃にはとりまとめたいと考えています。

原子炉再循環系配管の応力腐食割れ対策について

当発電所では1号機から5号機に設置されている原子炉再循環系配管については、計画的に点検するとともに、順次、応力腐食割れ対策を実施しています。このたび3号機に確認されたひびについては、健全性評価制度に基づいた評価では、技術基準を満足するという結果を国に報告しました。これは、健全性評価制度ではひびの進展を考慮しても、配管の健全性は5年以上有していることが求められていますが、3号機のひびは「長さ制限」に達するまでに約13年、「深さ制限」に達するには30年以上かかると評価したことからです。

このことから、当該継手の健全性は当面保たれると考えていますが、3号機は今回の定期検査で応力腐食割れ対策を計画していることから、当該継手はその対策にあわせて取替工事を行います。なお、4号機については、現在、応力腐食割れ対策を実施していることから、ひびが確認された継手は今回の定期検査中に取替工事を実施します。

繰り返しになりますが、当発電所では原子炉再循環系配管の応力腐食割れ対策を

このように計画的に実施しており、その際に確認されたたびについては、法令に則った科学的・合理的評価に基づいて慎重に対応するとともに、その評価結果については地域の皆さまにわかりやすくご説明してまいりたいと考えています。

協力企業作業員の計画線量超えの発生について

定期的な放射線測定作業を実施していた協力企業の作業員が管理区域から退域したところ、1日の作業で受けた放射線量の合計が計画線量（0.8 ミリシーベルト/日）を超え、1.03 ミリシーベルトであったことが確認されました。

当発電所としては、新潟県からのお申し入れを真摯に受け止め、安全な運転管理の徹底と再発防止対策をまとめて実施してまいりたいと考えています。

夏休みのイベントについて

当発電所では、地域の科学技術文化の発展を支援する事業として毎年8月に「ジュニアサイエンスアカデミー」を実施しています。9回目を迎える今回は、8月19日と20日の2日間、みなとまち海浜公園を会場に開催する予定です。今回は「エネルギー」をテーマに、原子力をはじめとした様々なエネルギーを紹介するコーナーを設置する予定です。

以 上

添付)

- 柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX
- プレス公表（運転保守状況）

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成18年7月)

平成18年7月13日

発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況							補足説明	
			8	9	10	11	12	1	2		3
1号機 1,100MWe (S60.9.18運開)	運転中	第14回 H17.6.14 ~ H18.5.30 停止期間 H17.6.14 ~ H18.4.30 (321日) (原子炉起動H18.4.26)	第14回定検による停止								
2号機 1,100MWe (H2.9.28運開)	運転中	第11回 H17.9.3 ~ H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第11回定検による停止							[2号機] ・使用済燃料貯蔵プール、リラクシング工事(第二期)中。	
3号機 1,100MWe (H5.8.11運開)	第9回定期検査中 H18.5.12 ~	第8回 H17.1.18 ~ H17.6.8 停止期間 H17.1.18 ~ H17.5.13 (116日) (原子炉起動H17.5.10)	第9回定検による停止							[3号機] ・5月23日から6月23日にかけて圧力抑制室の点検を実施し、ゴミ(テープ片など)を回収。	
4号機 1,100MWe (H6.8.11運開)	第9回定期検査中 H18.4.9 ~	第8回 H16.8.7 ~ H17.4.20 停止期間 H16.8.7 ~ H17.3.25 (231日) (原子炉起動H17.3.22)	第9回定検による停止							[4号機] ・5月29日から7月8日にかけて圧力抑制室の点検を実施し、ゴミ(テープ片など)を回収。	
5号機 1,100MWe (H2.4.10運開)	運転中	第11回 H17.7.4 ~ H17.11.2 停止期間 H17.7.4 ~ H17.10.8 (97日) (原子炉起動H17.10.8)	第11回定検による停止							[5号機] ・使用済燃料貯蔵プール、リラクシング工事(第二期)中。	
6号機 1,356MWe (H8.11.7運開)	運転中	第7回 H17.12.10 ~ H18.5.12 停止期間 H17.12.10 ~ H18.4.13 (125日) (原子炉起動H18.4.10)	第7回定検による停止								
7号機 1,356MWe (H9.7.2運開)	運転中	第6回 H17.3.1 ~ H17.8.2 停止期間 H17.3.1 ~ H17.6.23 (115日) (原子炉起動H17.6.20)	第6回定検による停止								

プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」。

発電所設備利用率(%) (6月末現在)

6月	74.6%
18年度累計	74.9%
運転開始後累計	77.3%

発電所発電電力量(MWh) (6月末現在)

6月	4,410,594
18年度累計	13,430,740
運転開始後累計	748,777,444

ドラム缶発生量(本) (H17年度第4四半期)

当期発生本数	1,249
貯蔵庫累積貯蔵本数	18,253
貯蔵庫保管容量	30,000

使用済燃料貯蔵体数(体) (H17年度第4四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	11,936
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,354
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	21,918

構内従業員データ(人) (7月3日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	792	2,584	60%
	刈羽村	73	248	6%
	その他	75	672	13%
	小計	940	3,504	79%
県外		103	1,064	21%
合計		1,043	4,568	-
		5,611	100%	
協力企業社数(社)		620		

来客情報(人) (6月末現在)

	6月	年度累計
地元	948	3,637
県内	2,010	6,492
県外	2,729	6,311
国外	21	80
合計	5,708	16,520

今後の主なスケジュール

予定日	内容
7月29日	農涼まつり(き・な・せ)
7月15日~30日 (土・日曜、祝日)	夏休み発電所構内見学バス運行(サービスホール)
8月4・5日	第119回名画鑑賞会(柏崎エネルギーホール)
8月6日	カムフィーイベント ~バルーン・アート~ (カムフィー)
8月10日	次回定例所長会見予定
8月10・11日	ミニチュアフード教室(柏崎エネルギーホール)
8月12日	ミニチュアフード教室(き・な・せ)
8月10日~16日	サービスホール夏休みイベント(サービスホール)
8月12・19・20日	第9回ジュニアサイエンスアカデミー
8月26日	東京電力 ミュージックライブ アット カムフィー(カムフィー)

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
	5月15日	3号機	制御棒位置表示に関する警報の発生について（区分）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3号機は5月12日に全ての制御棒（185本）を全挿入して原子炉の運転を停止。その後、5月13日「制御棒ドリフト」の警報が発生したことから、制御棒位置監視盤にて制御棒位置を確認したところ、制御棒1本が全挿入位置から1ノッチ（約15cm）引き抜けている状態を示していた。 ・ 調査の結果、当該制御棒および関連する炉内構造物、制御棒位置表示装置には異常が確認されなかったことから、原因は原子炉停止作業の過程において、制御棒駆動機構に設置されているつめが制御棒の溝に充分噛み合わずに引っ掛かったような状態で偶発的に停止していたために、制御棒駆動機構のつめが外れたと推定。 ・ 今後は制御棒駆動機構に設置されているつめが溝に確実に噛み合い、全挿入が確実に実施されたことを確認するような操作手順に改訂することとする。 <p>（前回お知らせ文） http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/press_kk/2006/pdf/18051501.pdf</p>
	7月12日	2号機	協力企業作業員の計画線量超えの発生について（区分）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月11日、2号機の原子炉建屋およびタービン建屋の管理区域内において0.8ミリシーベルト/日の計画線量で定期的な放射線測定作業を実施していた協力企業の作業員1名が管理区域から退域したところ、1日の作業で受けた放射線量の合計が計画線量を超え、1.03ミリシーベルト/日であったことが確認された。 ・ 原因は、当該作業員は警報付個人線量計の警報が発報したものの、定期的な放射線測定業務であることから測定作業を継続して行ったことによるものと推定。今後、高線量下における線量管理を適切に実施するため、放射線管理の重要性について再徹底を図ることを目的に再教育や事例検討会を行っていくこととする。 ・ なお、当該作業員が受けた放射線量は、法令で定める線量限度を超えるものではなく、身体に影響を与えるものではない。 <p>（前回お知らせ文） http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/press_kk/2006/pdf/18071202.pdf</p>